

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちが生まれた一九六〇年代というのは、日本が高度経済成長期に向かうなか、公害問題がクローズアップされはじめた時代でした。

工場が汚染された排水をそのまま夕れ流し、光化学スモッグ注意報が発令され、ニュースでは繰り返し警鐘が鳴らされているのに、環境汚染、自然破壊は深刻度を増していく。子ども心に、私は「もしかしたら人間という存在が地球を壊そうとしているのではないか」と考え、恐れながら育ったのです。

貪欲に繁殖し、破壊し、支配しようとする人類の姿は、まるで地球に巢食う悪性の腫瘍のようです。

このまま自然破壊が進み、人口が増えすぎってしまったら、限られた食糧や資源をめぐって、人は人を殺すしかなくなるんじゃないか。そんな恐ろしい考えが、ふと頭に浮かんだりしました。歴史を振り返れば、戦争はそんなふうにして繰り返されてきたんじゃないか。もしかしたら人類は、すでに引き返せない道突き進んでいるのかもしれない。中学生だったころ、先生がこんな話をしてくれたのを覚えています。

崖に向かって突き進む牛の群れがいて、先頭の牛が危険を察知して立ちどまることができたとしても、群れ全体に危険が周知されるまでには時間がかかる。先頭の牛たちが「とまれ!」「とまれ!」と叫んでも、はるか後方にいる牛たちには、この先に崖があることは見えない。見えないから、立ちどまらず、突き進んでしまう。後方から押し寄せってくる牛たちの勢いに押され、前方の牛たちも、押し出されるようにどんどん崖から落下していく。人間というのは、この牛の群れのようなものだ。

先生の話聞きながら、私には、なす術もなく次々と落下していく牛たちの姿が、まざまざと目に浮かびました。人も、また、誰かが警鐘を鳴らしたとしても立ちどまることができず、危険な道をそのまま突き進んでしまうんじゃないか。危険を察知して、それを発信したとしても、その深刻さが群れ全体に伝わる速度が、やみくもに突き進んでいく速度に、はたして追いつくだろうか。あるとき感じた恐怖は、いまだに私の胸の中にあるのです。

傷ついた他者を見ることができず、助けずにはいられないのも人間なら、経済成長の御旗を掲げて、際限なく破壊を繰り返しているのも人間です。

いったい、どちらが人間の本質なのでしょう。

ラス・カサスの『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を読んだのは、そんな答えの出ない問いに悶々としていた高校生のときでした。

ドミニコ会の宣教師だったラス・カサスは、スペイン人によるインディヘナ(新大陸先住民)に対する不当な扱いを告発した人物として知られています。植民地支配に乗り出したスペイン人たちが「キリスト教徒でもない先住民たちに魂はあるだろうか」という差別的な議論を疑いもなくしていた時代に、同じスペイン人でありながら、先住民たちの苦境を見て見ぬふりができず、非人道的な扱いの数々を逐一書きとめ、それを報告書として皇太子に献上しました。

このラス・カサスという人は、なんとすごい人なのだろう、と思いました。

スペイン人でありながら、インディオたちに手を差しのべようとした彼は、どちらでもあり、どちらでもない、境界線の上に立つ人でしたから。

どんな時代であれ、なにが正解か、見極めるのはむずかしい。

人ができるのは、他者と自分の境界線の上に立ち、どうすれば共に生きていくことができるのかを考え続けることなのかもしれない。

助けようとする人と破壊する人、人間は、たぶんどちらでもあり、どちらにもなれる。

考えてみれば自分自身、自然破壊がユルせないと憤りながら、電気やガスを使い、工場で作られたセイヒンを使い、文明の恩恵を受けながら生きている。文明化された社会で暮らしている私たちは、誰もがその□を抱えながら生きていくほかはないのでしょうか。

解剖学者の養老孟司先生から、以前、こんな話を聞いたことがあります。

チンパンジーと人間の赤ちゃんを比べてみると、最初は人間のほうが身体的にも能力的にも劣っているのだけれど、あるところから突然、形勢が逆転するのだそうです。

チンパンジーにとって世界は、つねに自分から見た世界でしかない。ところが、人間の子どもは、あるとき、自分から見た世界だけでなく、自分の外に出て、自分というものを見る。この「他者から見た自分」という視点を獲得したときに、人は、初めて他者が自分と同じような存在であることを想像し、他者に共感できるようになるといいます。人間は、自分という「我」の外に出ることができると。そして他者の痛みを自分の痛みと重ね合わせることができると。そして、そのことで大きく成長するのだと。

だとしたら、傷ついた獣を見て「かわいそうだ」と思うのは、人間が、そうやって一瞬にして他者と自分を重ね合わせ、もし自分にその痛みが起こったらどうなるのかを想像できるからで、だからこそ見過ごすことができないうし、助けずにはいられないのかもしれない。人間だって、もともとは野生動物だったはずなのに、食うか食われるかだけではない、このやむにやまれぬ情動の正体は、いったいなんなのでしょう。

人間というのは、本当に不思議な行動をするものですね。

自分という「我」の外に出て、他者の痛みを想像することができる。

⑤ それこそが、人間を人間にしているのかもしれない。

(上橋菜穂子×齊藤慶輔「世の中への扉 命の意味 命のしるし」による)

問一 線部①～③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線部A・Bの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 警鐘が鳴らされている

ア 対応が求められている      イ 善悪が議論されている      ウ 注意が呼びかけられている

エ 状況が報道されている

B やみくもに

ア 先のことを考えず      イ 無理に      ウ 期限を決めず      エ 熱心に

問三 線部(1)とは、具体的にどのようなことを指していますか。説明しなさい。

問四 線部(2)とは、どのような問いですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問五 線部(3)とありますが、筆者がこのように思ったのはなぜですか。その理由を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ラス・カサスは宣教師という立場でありながら、直接皇太子に自国を批判する報告書を出すという勇氣ある行動をとったから。

イ ラス〓カサスはキリスト教を信じていない先住民たちにもキリスト教の教えを伝えようとし、慈悲深く対応したから。

ウ ラス〓カサスは多くのスペイン人が先住民たちを差別する中で、先住民たちの立場に立つてものを考え、彼らを救おうとしたから。

エ ラス〓カサスは当時の植民地支配に抵抗するために、先住民たちに味方して、彼らが受けていた差別的扱いを一つ残らず書きとめたから。

問六 本文中の□に入れるのに最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 疑問                      イ 矛盾                      ウ 実感                      エ 苦難

問七 —— 線部(4)の内容は、どこからどこまでですか。その最初と最後の七字をそれぞれ抜き出して答えなさい。

問八 —— 線部(5)とありますが、「人間を人間にしている」のはどのようなことだと筆者は考えていますか。六十字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

転校生の川村マコトは学校の番長になることが夢だというおてんばな女の子で、クラスの女子にきらわれている。同じように仲間はずれにされている高野さんのことで、クラス委員の「ぼく(ツヨシ)」はマコトに責められている。

「高野さんだったら、いじめられてもしようがないと思ってたわけ？」

胸はさらにどきどきしてきて、息が詰まった。違う、違うよ、そんなことない、と言いたいのには、声はどうしても出てこない。

マコトは「そうでしょ？」と言った。笑顔だった。怒っていると思ったのにそうじゃなかったから、ぼくはよけい息が詰まってしまって、「うん……」とうなずくのがやっとだった。

「悪いけど、そういうひとのおせっかいて、わたし、いらさないから」

「でも……じゃあ、高野さんのことも一緒に、みんなで話し合って……」

それがいちばんだ、それしかない、と思って言った。

でも、マコトは——<sup>(1)</sup> 今度は初めて、怒った顔になった。

「学級会で話し合う前にやることあるんじゃないの？」

「……え？」

「わたしのことはどうでもいいけど、高野さんにツヨシが話しかければ、それでいいんじゃないの？ そういうこと全然やらずに、なんで話し合いで決めるの？」

「だから……そういうのって、クラスみんなで……」

「ツヨシはどうなの？ みんなで決めないとなにもできないの？ 話し合いをする前に、まずツヨシが自分でやればいいじゃない。なんでやらないの？ ツヨシは高野さんのこと、同じ四年一組の友だちだと思ってるの？」

「そんなことないけど……でも、オレ、男子だし……」

もじもししながら言うと、マコトは、ふーん、とうなずいた。なんだか、この子だめだ、と見捨てたような様子だった。「ツヨシって、意外とつまらないことを言う子なんだね。男子でも女子でも同じ四年一組だと思っし、クラスが違ってても、学校が違ってても、誰かをひとりぼっちにしちゃいけないっていうのはジヨウシキだと思っしけど」

ほくはうつむいたきり、顔を上げられなくなってしまった。

「わたしは番長だから、番長のやり方でやるから、よけいなことしないで」

ほくはうつむいたまま、だった。

保健室のドアが開いて、肘に赤チンを塗った高野さんが出てきた。

マコトは「行こっ」と高野さんと手をつないで歩きだした。ほくはうつむいた顔を最後まで上げられなかった。

ほくたちが校庭に戻ると、中山先生は「じゃあ、最後に腕立て歩きで競争をしようか」と言った。

十五メートルのコースを往復する。折り返しのところで腕立てをするほうと足を持つほうが交代する。十五メートルって、ふつうに歩けばなんてことのない距離だけど、腕立てで進むのはかなりキツイ。みんなも「うげーっ」という顔になった。

特に高野さんは、早くも半べそをかいて、「わたし、見学する」とマコトに言った。「さっきケガしたところも痛いし……」

友だちだったら——そうだよ、と言うはずだ、と思っていた。高野さんがかわいそうだから無理してやらせるわけない。

ところが、マコトはきっぱりと言った。

「すみむいただけでしょ？ やろうよ」

「でも……」

「せっかく練習してだいぶ歩けるようになったんだから、行けるところまででもいいから、がんばってやろうよ」

「でも……わたし、遅いから、川村さんに迷惑かけちゃうし……」

そうなんだ、高野さんは三年生のときからなにをやってもテンポがのろくて、みんなで競争をするときにはいつも高野さんのところで逆転されて、クラスやチームに迷惑をかけて、だからいつのまにかみんなは高野さんを「余り」にするようになっていて……。

「違うよ」

マコトは言った。さっきより、もっときっぱりとした口調だった。

「そんなのは迷惑なんて言わないんだよ」

「でも……わたしと組んだら、ゼツタイにびりつけつになっちゃうし……」

マコトは、高野さんの肩をぽんと叩いて「だいじょうぶ」と笑った。「順位なんてどうでもいいから、やってみようよ」それに——と、マコトはつづけた。

「番長が一番にならなくても番長なんだから」

ヒュッ、と短くくちぶえを吹いて、チョンマゲを揺らして、笑った。

最初に女子がスタートした。

予想どおり、高野さんの腕立て歩きはみんなよりずっと遅い。折り返し点のポールまでたどり着けるのかどうかもわからない。

でも、高野さんは一歩ずつ、ゆっくりと、途中でやめずに腕立て歩きをつづけた。足を持つマコトも高野さんのペー

スに合わせてゆつくりと歩きながら「いいよ、その調子、そうそう、いつちに、いつちに」と応援をつづける。

他のペアがみんなゴールしても、高野さんはまだ折り返し点の手前二メートルのところにいる。腕が止まった。もうだめ、というのが全身から伝わった。

あとちよつとなのに。高野さんが十五メートルを完走するなんて、そんなの、いままで一度もなかったことなのに。それって、ほんとうに、ほんとうに、すごいことなのに。

「がんばれ！ あとちよつと！」

ぼくは思わず叫んでいた。両手をメガホンにして「がんばれ！ がんばれ！」と声援をおくっていた。

それにつられたように、ジャンボやタッチも「あとちよつとだぞー」「根性だ、ド根性！」と高野さんを応援しはじめて……やがて、その声は、少しずつ女子にも広がっていった。

マコトはぼくたちを振り向いた。

ニコツと笑った。

そして、高野さんが折り返し点までたどり着くと、高野さんの手を取って、高々とかかげた。みんなはいっせいに拍手をした。高野さんは涙ぐんでいた。いつもの泣き虫の高野さん——でも、その涙は、ぼくたちが初めて見るうれし涙だった。

「さあ、交代だよ」

高野さんに足を持ってもらったマコトは、折り返し点からゴールに向かって腕立て歩きを始めた。今度はもう声援なんていらなかった。それどころか、みんな驚いて、ポーズとして……だって、マコトの腕立て歩きはすごく早かったんだから。男子よりずーっと早かった。やっぱり、あいつ、番長なんだ。番長だから、競争で一番にならなくても、やっぱりすごいやつなんだ。

じゃあ、ぼくは——？

ぼくは、このままで、いいの……？

翌朝、どきどきしながら教室でマコトが来るのを待った。

始業のチャイムが鳴るぎりぎりになって、マコトが教室に入ってきた。

「おはよう！」

いつものとおり、女子は誰も返事をしない。

だから、ぼくは——。

男子も女子も関係ないんだから——。

息を大きく吸い込んだ、そのとき、教室の隅から小さな声の「おはよう」が聞こえた。女子の声だ。驚いて振り向くと、高野さんが顔を真っ赤にしていた。

いまの、高野さんの声だ。かほそくて、いまにも消え入りそうな小さな声だったけど、高野さんは確かに、マコトにあいさつをしてくれたんだ。

ぼくはもう一度、息を大きく吸い込んだ。

うれしくて、胸がわくわくしてきて、でもなんだか泣きそうにもなって——大きな声で「おはよう！」とマコトに言った。

マコトは一瞬びっくりして、くちぶえをヒューッと吹いて、ゆつくりと自分の席に向かいながら、一人ずつに「おはよう！」と声をかけた。自分の席を通りすぎて、クラス全員の席を回って、みんなに「おはよう！」とあいさつをした。

みんなも最初は どうしていいかわからない様子だったけど、しだいに「おはよう」を返す子が増えてきて、途中からは全員、元気な声で「おはよう！」と言うようになった。  
これが番長のやり方<sup>(4)</sup>ってヤツなんだろうか。

話し合いの多数決より、ずっと強引<sup>(3)</sup>で、ちょっと乱暴な感じもして、でも、カッコいいな、これ……。  
マコトはおツボネさまの前で立ち止まった。

「坪根さん、おはよう！」

元気いっぱいと言うと、おツボネさまはちよつとすねたように横を向いて「玲夏ちゃんって呼んでよ、そのほうが慣れてるから」と言った。

その瞬間——四年一組の『マコト嫌い同盟』は終わったんだ。

(重松清「くちぶえ番長」による)

問一 —— 線部①・②のカタカナは漢字に直し、③は読みをひらがなで答えなさい。

問二 —— 線部(1)とありますが、マコトはツヨシのどのような言動に腹を立てているのですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問三 —— 線部(2)とありますが、高野さんがこのように言ったのはなぜですか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問四 —— 線部(3)とありますが、「ぼく」が「どきどきし」ているのはなぜですか。その理由を説明した次の文の1・2に入れるのに適当な表現を、それぞれ自分で考えて答えなさい。

高野さんに対するマコトの行動を見て、  
1  
「」と思いはじめた「ぼく」は、  
2  
「」しようとして緊張しているから。

問五 —— 線部(4)とありますが、「番長のやり方」について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いじめの解決のためにみんなで話し合うのではなく、一人一人に意見を聞こうとすること。
- イ 周囲の人からの評価を気にせず、孤立する人を作らないという信念を持って行動すること。
- ウ 自分が競争で一番になって注目を浴びることより、クラス全体でよい結果を出すことを優先すること。
- エ クラス全員が仲よくできるように、自分が悪役になってわざときつい言い方をする事。

問六 本文を読んで生徒が書いた次の感想のうち、本文の内容と合わないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」の視点から文章が書かれていたので、読んでいてそこに自分もいるように感じた。優柔不断な「ぼく」が、マコトにきらわれるのは当然だと思った。
- イ みんなからいじめられていた高野さんが最後の場面でマコトにあいさつをしたのは、マコトの影響を受けて高野さんが成長したからだと感じた。

ウ マコトが二回くちぶえを吹いていたが、それは物事を前向きにとらえたり、元気を出したりする場面で、番長らしくてかっこいいと思った。

エ 途中でやめずに腕立て歩きをした高野さんのがんばりにクラスのみんなが感動して、その結果高野さんへのいじめが完全に解消されたのでとてもよかった。

オ 会話が多く用いられてテンポよく話が展開している。マコトと「ぼく」の性格が対照的だけど、クラスの人間関係に悩む「ぼく」の気持ちもよくわかる。

### 三 次の各問いに答えなさい。

(I) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、横書きの原文を縦書きの形式に改めています。

当時、テレビや雑誌では「便利で豊かな社会を」というフレーズが普通に使われていました。そして、その時の「便利」とは「手間がかからないか、頭を使わずに済むこと」と同義に使われていました。高度成長期からバブルの時代です。

ここで、人様のお役に立つ一つの方法は社会を豊かにすること、社会を豊かにすることは世の中を便利にすること、便利にすることは手間いらずか頭を使わずに済ませられること、そのための方策は自動化・効率化・高機能化など、という関係が私の頭の中に成立しました。つまり、工学の使命を果たすには自動化・効率化・高機能化を目指していれば良いのです。これは私だけではなさそうで、工学系の論文を読みると、みんなが同じふうを考えているようでした。(中略)

ポーランド出身の研究者から、日本はとても便利で素晴らしい国ですね、とのお褒めの言葉をいただいたことがあります。私が褒められたわけではないのですが、日本で生まれ育った者として自国が褒められるのは、なんとも嬉し  
いものです。来日する前、その研究者は、日本で暮らすために日本語を覚えねばならぬと思っていたようですが、「来日して10年になるが、日本語を覚えなくて済んでいる」そうです。

グローバルゼーションの賜物で、世界が均質化され、ほとんどの日本人は英語がしゃべれるから、というわけでもなさそうです。

まず住居。いったん賃貸契約すると、毎月の住居費は口座振替かカードから落とされてゆきます。便利ですし日本語を話す必要はありません。

次に買い物。無言でスーパーに入り、欲しいものをカゴに入れてレジまで持ってゆき、無言で支払いをしただけで済みます。便利ですし、日本語を話す必要はありません。それどころか、レジでお店の人とお話をしていると、行列の後ろのほうから「早くしろ視線」が飛んできてつらい思いをします。「所懸命に日本語を覚えても、スーパーで値切り交渉などできません(関西では、一部の家電量販店で値切り交渉OKなところはありますが)。

近い将来、毎日の食料品でさえスーパーに出向いて買う必要はなく、ネットで通販の時代が来るでしょう。そうすると、ますます日本語を話すことなく暮らせる、便利な国になりそうです。

ところが、逆に、片言の日本語以上にスキルアップしたいとのモチベーションが湧かない、これは案外つまらないものだ、せっかく日本に住んでいるのに、とも言っていました。仕事の選択肢のうちの一つとして選んだのがたまたま日本だけであって、何も日本である必要はない、日本に住んでいること自体を楽しみたいのに、「その必要はない」と「便利」が彼に言っているのです。

そして問わず語りに、ポーランドで民主化が成功する前夜(1980年代)の不便だった思い出を、友人は語り出しました。食料配給にまず早起きのお婆ちゃんが並び、次に学校に行く前の自分が交代し、学校に行く時間頃にお母

さんが交代しに来るのが、毎日の日課だったそうです。今の日本ではあり得ない光景です。効率化最優先の社会では、忌避すべき状況です。ただ、ポーランドの友人は、この状況を嬉しそうに語るのです。家族の結束は、この時が一番強かったと。この時は、お婆ちゃんも僕もお母さんも、誰一人として家族から欠けてはならない存在だと、みんなが思っていたんだと言っていました。

均質化された「便利」に居心地の悪さを感じるといふことでしょうか。ポーランドの友人の話は、グローバリゼーションとは表面的には関係ないように見えます。ただ、「誰でも同じように」ということがグローバリゼーションならば、ポーランドにいろいろが日本にいろいろが同じように暮らせるのは、グローバリゼーションの賜物と言っても良さそうです。

世界は、同じように均質化されているのが望ましいのでしょうか。しかし、「せっかく日本に住んでいるのに」という呟きは、その世界は居心地が悪いと言ってるように聞こえます。そして、問わず語りに不便な配給の話を始めたのは、居心地の悪さの反対側に「不便」があると直感したからではないでしょうか。

(川上浩司「不便益のススメ——新しいデザインを求めて」による)

問一 —— 線部(1)とありますが、当時どのような社会を実現しようとしていましたか。それを説明した次の文の  
 1 . 2 に入れるのに適当な表現を、本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。ただし、1 は  
 十二字、2 は六字とします。

当時、1 という方策によって 2 社会を実現しようとしていた。

問二 —— 線部(2)とは、どのような側面を指して言っているのですか。解答欄の形式に従って、本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

問三 本文について話し合う先生と生徒の会話を読んで、1 2 3 に入れるのに適当な表現をそれぞれ答えなさい。ただし、1 . 2 は本文中からそれぞれ十字で抜き出し、3 は自分で考えて答えなさい。

先生 昔のポーランドの社会と日本社会とを比べながら話が進んでいますね。本文で筆者が何を言いたいのか考えながら、自由に話し合みましょう。

Aさん ポーランドの研究者のように外国で誰とも話さずに生きていけるのは楽だけど、楽しくはないですね。誰ともかかわりを持たずに生きるとしたら、決して誰かにとつての 1 にはなれないし、その国とのつながりもそこにいる意味も見いだせないでしょうね。それは寂しい気がします。

Bさん 2 というのは、世界中が同じようになっていくことですよ。世界共通のものが多いいのは快適だと思ふけれど、どこへ行っても同じではつまらない。オリンピックまであと半年ですが、せっかく日本に来てくられても競技を見にただで日本文化に関心を持ってもらえないのは、もったいないと思います。

Cさん 本文の最後の「居心地の悪さの反対側に『不便』がある」という表現が印象的です。たとえば、飛行機や新幹線を使えば、便利に速く目的地に着くことができます。でも路線バスや普通列車で目的地に行くと、不便かもしれません。速い乗り物では気づかない関わり方ができます。ゆっくりと景色を見たり、乗り換えで足を止めて現地の人とふれあったりすることができます。それをまとめて言いかえると 3 といふことかなと思いました。



# 国語問題

(10枚のうちの九枚め)

先生 その通りですね。筆者はまさにそのことを本文とは別の箇所では「不便益」という言葉で説明しています。  
高度成長期の価値観を離れようという提案が読み取れそうですね。

(Ⅱ) 次の漢字を組み合わせて、別の漢字を四つ作りなさい。

(例) 口 + 及 ↓ 吸

金	穴
谷	木
工	欠
反	十

# 国語解答用紙

(10枚のうちの一〇枚め)

★次の点に注意して答えなさい。

問いに「三十文字以内で答えなさい」というように、字数の指定がある場合には、句読点や記号も一字に数えて解答すること。

中B方式  
令2

得点欄 とらゐ

㊦	㊥	㊤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">(II)</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">(I)</th> </tr> <tr> <th colspan="3" style="border-top: none;">問三</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問二</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問一</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問四</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問三</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問二</th> <th colspan="3" style="border-top: none;">問一</th> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border-left: none;">3</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">2</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">1</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">2</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">1</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">2</td> <td colspan="3" style="border-left: none;">1</td> </tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="18" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> <td colspan="6" style="border-left: none;"></td> </tr> </table>	(II)						(I)						問三			問二			問一			問四			問三			問二			問一			3			2			1			2			1			2			1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問六</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問五</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問四</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問三</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問二</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問一</th> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> </table>	問六						問五						問四						問三						問二						問一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問八</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問七</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問五</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問四</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問三</th> <th colspan="6" style="border-bottom: none;">問一</th> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr><td colspan="24" style="border-top: none; height: 10px;"></td></tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> <td colspan="12" style="border-left: none;"></td> </tr> </table>	問八						問七						問五						問四						問三						問一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
(II)						(I)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
問三			問二			問一			問四			問三			問二			問一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3			2			1			2			1			2			1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
問六						問五						問四						問三						問二						問一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
問八						問七						問五						問四						問三						問一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
側面																		㊦	㊥	㊤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

合	計

㊦	㊥	㊤
---	---	---

六	五	四	三	二	一
---	---	---	---	---	---

八	七	六	五	四	三	二	一
---	---	---	---	---	---	---	---